

# 2 課

7月10日

## 不安と反抗心



安息日午後 7月3日

### 暗唱聖句

これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。(1コリント 10:11、口語訳)

これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。(1コリント 10:11、新共同訳)

### 今週の聖句

民数記 11:1~33、民数記 12:1~13、民数記 13:27~33、民数記 14:1~23、1コリント 10:1~11、民数記 14:39~45

### 今週のテーマ

何世紀にもわたり多くの人々によって、大地震の前に、犬やそのほかの動物たちが、普段は見せない落ち着かない行動を取ることが報告されています。

現在、科学者たちはすでに、動物たちは地震による第二波が到達する前に、最初の地震性の振動、つまり圧力波(P波)を感知することができることを定説としています。おそらくこの説によって、なぜ動物たちが、地面が揺れ始める前に異常な行動や落ち着かない行動を取るのが説明されるでしょう。動物の中には、象のように、地震前に人間には全く感じられない低周波の音波や振動を感じることができるものもいます。

2011年8月23日、米国のワシントンDC地区をマグニチュード5.8の地震が襲ったとき、スミソニアン協会国立動物園の動物たちの中に異様な行動を取った動物たちがいました。その中にキツネザルがいましたが、彼らは揺れの始まる約15分も前に大声で吠え始めたのです。

今週私たちは、人間の感じる不思議な不安について学びます。それは、地震のような自然災害によるものではなく、墮落した人類の根本的な罪深さによるものであり、キリストが、信仰と服従によって彼に来る者すべてにお与えになる平安を拒ませるものです。

**問1 民数記 11：1～15 を読んでください。イスラエル人は何に対して不満を表したのでしょうか。**

イスラエル人は、エジプトの肉、きゅうり、メロン、葱、玉葱、そしてにんにくを懇願しました。「誰か肉を食べさせてくれないものか。エジプトでは魚をただで食べていたし、きゅうりやメロン、葱や玉葱やにんにくが忘れられない。今では、わたしたちの唾は干上がり、どこを見回してもマナばかりで、何もない」(民11：4～6)。彼らは、エジプトの食べ物のことだけを思い出し、奴隷生活の信じがたいほどの苦難を忘れては、都合の良いことを思い出して苦しみに違いありません(出1章と比較)。

彼らは1年以上もの間、神のマナによって養われていました。それなのに彼らは不満を感じ、別の食べ物を求めました。モーセでさえ、この不満の影響を受けました。このような不満の集団を率いることは容易ではありません。しかし、モーセは救いを求めるべきお方を知っていました。「あなたは、なぜ、僕を苦しめられるのですか。なぜわたしはあなたの恵みを得ることなく、この民すべてを重荷として負わされねばならないのですか」(民11：11)。

**問2 民数記 11：16～33 を読んでください。神はこの不平の訴えにどのように答えられましたか。**

神は私たちが不満を感じる時、私たちの必要に耳を閉ざされません。イスラエルの場合、主は彼らの肉の飢えを満たすためにうずらをお与えになります。しかし、それはイスラエルが望んだ肉ではありませんでした。私たちは不幸を感じ、不満を抱き、怒りを覚えますが、怒りの対象は多くの場合、単なる起爆剤にすぎません。肉が不満の真の原因ではないのです。私たちが不満を抱くのは、私たちの心に潜む何かもっと深い、私たちの心を捕らえている誤った思いのためです。イスラエルは神の導きに不満を抱いたのです。これは私たちみなが目にするべきことであり、私たちが置かれた目の前の状況やその前後の物事の流れによらず、私たちが考えているよりもたやすく抱きやすい思いなのです。

過去の思い出は、なぜ実際よりも良いものになりやすいのでしょうか。

**問3** ミリアムとアロンは、何に対して不満を抱きましたか（民12：1～3）。

ミリアムとアロンは、表向きはモーセがクシュの女性ツイポラを妻にしたことを非難しています。

しかし、聖書は明らかに、2人の訴えは口実であったことを示しています。アロンとミリアムは、重要なリーダーの役割を担っていました（出4：13～15、ミカ6：4）。しかし今、新しいリーダーたちの台頭によって、2人のリーダーシップが脅かされると感じて彼らは言いました。「主はモーセを通してのみ語られるというのか。我々を通して語られるのではないか」（民12：2）。

**問4** この訴えに神はどのようにお応えになりましたか（民12：4～13）。神はなぜ、このように断固たる対応をされたのでしょうか。

神は即時に応答され、そこに解釈の余地はありません。預言の賜物は、より多くの権力を行使するための武器ではありません。モーセは、リーダーシップを取るにふさわしい人でした。なぜなら彼は、自分がどれほど全的に神に依存している者であるかを知っていたからです。

1節に、ミリアムの名前がアロンより先にあることから、おそらく彼女がモーセへの攻撃を扇動したのだらうと考えられます。このとき、アロンはすでにイスラエルの大祭司として奉仕していました。もし彼が重い皮膚病によって撃たれていたとしたら、彼は幕屋に入ることができず、民のために祭司として仕えることができなかつたでしょう。一時的な重い皮膚病をもって下されたミリアムへの罰は、2人に対する神の不興をありありと伝えるものであり、2人が必要としていた態度の変化をもたらすに十分なものでした。ミリアムのためのアロンの嘆願は、彼もまた同罪であることを認めています（民12：11）。そして今、批判と不満の代わりに、アロンはミリアムのために嘆願しており、モーセは彼女のためにとりなしているのです（同12：11～13）。これこそが、神がその民の中に見たいと望んでおられる態度です。主は聞き、主はミリアムを癒やされます。

**教会の指導者を批判することは、いつでも簡単です。たとえ私たちが教会の指導者に反対であったとしても、批判する代わりに指導者のためにとりなすことができたなら、教会にとっても、私たち自身の霊性にとっても、どれほど益となることでしょう。**

イスラエルの人々は遂にカナン<sup>セツコウ</sup>の国境に着き、この地を偵察するために12人の斥候が送り込まれます。彼らの報告は驚くべきものでした。

**問5 民数記13：27～33にある斥候たちの報告を読んでください。イスラエルの人々の期待は、どんな部分によって打ち砕かれましたか。**

カレブの介入にもかかわらず、疑い深い者たちと懐疑論者たちの声が打ち勝ちます。イスラエルは、神が約束されたものを取るための行動を起こしません。心は不満で満たされ、彼らは勝利の行進と叫びの代わりに嘆きとつぶやきを選びます。

心に不満があると、私たちは信仰によって歩むことに困難を覚えます。しかしながら、不満は私たちの感情に影響を与えるだけではありません。科学者たちは、(睡眠不足を含めて)休みがあまりに少ない状態と、誤った選択、肥満、嗜癖、そして更なる不満と不幸の間には、直接の因果関係があると述べています。

**問6 民数記14：1～10を読んでください。次に何が起きましたか。**

物事は、悪い状態から最悪の状態へと進みます。「ただ、主に背いてはならない」(民14：9)とのカレブの必死の訴えも顧みられず、共同体全体は彼らの指導者たちを石で打ち殺そうとします。**不満は反逆へと導き、反逆は究極的に死へと導きます。**

「不忠実な斥候たちは、口をきわめてカレブとヨシュアを責めた。そして、彼らを石で打てという声があがった。気の狂った群衆は石をつかんでこの忠実な人々を殺そうとした。彼らは狂ったような叫び声をあげて前進した。ところが急に、彼らの手から石は落ち、声は静まり、彼らはふるえおののいた。神が彼らの殺意をとどめるために介入なさったのである。神の臨在の栄光が、燃える光のように幕屋を照らした。すべての民が主のしるしを見た。彼らよりも大きな力のあるお方が、ご自身をあらわされた。こうなっては、あえて反逆しつづける者はひとりもなかった。悪い報告をした斥候たちは、恐怖に身を縮めて、息せき切って天幕に帰った」(『希望への光』201ページ、『人類のあけぼの』上巻469ページ)。

神は、それらの石がモーセとヨシュアとカレブに向けられていたとしても、この反逆は、究極的には神ご自身に対するものであることをご存じでした。

**問7** この反逆に直面して、神はモーセにどのような機会を提供されますか（民14：11、12）。

神はイスラエルの人々を滅ぼし、全く新しい国民を立て、モーセをその民すべての父としようとの申し出をされます。

**問8** モーセは、単に彼に対してだけでなく、神に対するこの公然の反逆にどのように対応しましたか（民14：13～19）。

この選択の中に、私たちは真の神の人を見ることができます。この凍りついた時間の中でモーセが出した答えは、1400年以上あとに、天の仲保者なるキリストが悲嘆に暮れる弟子たちのためにささげられた祈りを予期させるものです（ヨハ17章）。実に、ここでモーセがしたことの中に、多くの神学者と聖書研究者たちが、キリストが私たちのためにしてくださることの型を見てきたのです。彼らの罪、私たちの罪に疑問の余地はありません。しかしなおも、モーセは嘆願します。「どうか、あなたの大きな慈しみのゆえに……、この民の罪を赦してください」（民14：19）。そして主なる神が、このモーセの仲保のゆえに赦されたように、神は今、イエスのゆえに、その死とよみがえりと私たちのための仲保のゆえに、私たちを赦してくださいのです。

モーセは嘆願します。「どうか、あなたの大きな慈しみのゆえに、また、エジプトからここに至るまで、この民を赦してこられたように、この民の罪を赦してください」（民14：19）。主の恵みは反逆と、そして、その中心にある不満と闘います。赦しは、新たな始まりを提供します。

しかし、そのために代価が払われます。人々は赦されましたが、この世代の人たちは約束の地に入ることが許されないのでした（民14：20～23）。

これは裁きのように見えますが、実は恵みなのです。この世代が主に頼ることを学んでいないとするなら、どうして強大なカナン都市国家を征服することができたでしょう。彼ら自身が闇の中につまずいていながら、どうして異邦の民の光となることができるでしょう。

**あなたは赦された罪の結果として、どのような痛みを伴う教訓を学んだことがありますか。**

**問9 イスラエルの荒れ野での放浪と、イエスの再臨を目前に生きている神の民との間には、どんな共通点がありますか（1コリ10：1～11）。**

歴史を通して神の民は、約束の地を求めて荒れ野をさまよってきました。この荒れ野にはさまざまな顔があります。現代社会においては、それは圧倒的な情報という砲弾の嵐、鳴りやまない携帯電話の着信音、そして、深く終わりのない享樂のざわめきであるかもしれません。この社会は、愛と称してポルノ雑誌を売りつけ、諸問題の解決は物質主義にあると言います。もうちょっとフィットネスに励めば、もうちょっと若くなれる、もうちょっと流行に乗れば、もうちょっと魅力的になれる——こうした欲望が、人間のすべての問題を生み出しているのです。

私たちはイスラエルの人々のように、心の平和を求めながらも得られず、そしてあまりにしばしば、間違ったところにその解決を求めます。

**問10 民数記14：39～45で、イスラエルの民は神の裁きに対してどのような行動を起こしますか。**

神の裁きに対するイスラエルの反応は、彼らの取る典型的な態度でした。彼らは言いました。「さあ、主が約束された所へ上って行こう。我々は誤っていた」（民14：40）。

中途半端な献身は、不十分な予防接種のようなものです。役に立ちません。今日、医師たちは生後24時間以内のB型肝炎の予防接種を奨めています。初めの接種はこれで良いのですが、その後2回ないし3回、その効果を促進するために、適正な時期に、適正量の接種が行われなければ、B型肝炎の抗体は決してつくられません。

民数記14章の最後の数節によれば、イスラエルの反逆的な方向転換は、彼らが神の新しい指示を拒み、主の契約の箱もモーセの指揮もないまま、頑なに攻め上ったために、死と失望に終わりました。

臆測は高い代価を要求し、死へと導きます。しばしば臆測は恐れによって突き動かされます。私たちは何かを恐れて決断するとき、後に後悔するような決断をするものです。

あなたが信仰によって行動したときと、臆測で行動したときのことを考えてみてください。それらの決定的な違いは何でしょうか。



「今となつては、彼らは、自分たちの罪深い行為を心から悔いているように思えた。しかし、彼らの悲しみは、忘恩と不従順を感じたからではなく、むしろ彼らの悪行の結果のためであった。主がお決めになったことを容赦なくなることがわかったとき、人々はまたわがままな気持ちを起こし、自分たちは荒野に帰りたくないと主張した。神が、敵の地から引き返すようにお命じになったのは、彼らの表面的服従が真実かどうかを試みておられたのであったが、それが真の服従でなかったことが明らかになった。彼らは、激情の支配するままに動き、神に従うことを勧めた斥候たちを殺そうとしたことによって、非常な罪を犯したことは認められたけれども、彼らは、ただ恐るべきあやまちを犯したことと、その結果が彼らを悲惨な末路に陥れるものであることを知って、恐れたにすぎなかった。彼らの心に変化はなかった。そして、彼らは、また似たような暴動を起こすきっかけを必要としていたにすぎなかった。このことは、モーセが神の権威によって、彼らに荒野へ引き返すように命じたときに起こった」（『希望への光』202ページ、『人類のあけぼの』上巻470、471ページ）。

「だが信仰は決して独断的な信仰〔臆測〕と関係がない。真の信仰を持っている者だけが独断的な信仰〔臆測〕に対して安全である。なぜなら独断的な信仰〔臆測〕はサタンから出た信仰のにせものだからである。信仰は神の約束をわがものとし、従順という実をむすぶ。独断的な信仰〔臆測〕もまた約束をわがものにするが、サタンと同じように、これを罪とがの言い訳に使う。信仰があったら、アダムとエバは神の愛に信頼し、神の戒めに従ったのである。ところが独断的な信仰〔臆測〕のために、彼らは神の律法を犯し、神の大きな愛によって自分の罪の結果から救われると信じた。憐れみが与えられる条件に従わないで天の神の恵みを要求するのは信仰ではない。真正の信仰は聖書の約束と条件とを土台にしている」（『希望への光』726ページ、『各時代の希望』上巻141ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① 信仰と臆測の間にはどんな違いがありますか。なぜ最初のカナン攻略は信仰による行動で、後のイスラエルの人々の攻撃は臆測によるものなのでしょう。信仰と臆測の違いにおいて、動機と状況はどのように大きな役割を果たしますか。
- ② 罪は赦されたとしても、私たちはしばしば罪の結果と共に生きなければならないという事実について、さらに考えてみましょう。罪が赦されたことを知りつつも、おそらくなお、その否定的な影響に苦しんでいる人たちをどのように助けることができるでしょうか。